

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

6/10

論述ブースト No.3

医療倫理の「4原則」で論じる —— 善行・無危害・自律・公正を答案に組み込む

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。医療倫理の小論文で「患者さんのために最善を尽くすべき」と書くだけの答案が採点者にどう読まれるかを、審査側として繰り返し経験してきた。4原則という枠組みを持つ答案との評価の差を内側から知る者が教えるからこそ、この講座は説得力を持ちます。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医療倫理・生命倫理の小論文

東京大学・京都大学・慶應義塾大学医学部・東京科学大学をはじめとする医学部の入試では、インフォームド・コンセント・終末期医療・医療資源配分などの倫理テーマが小論文として出題される。ピーチャムとチルドレスの4原則（善行・無危害・自律尊重・公正）を論証の枠組みとして使える受験生は、採点者（大学教員）が求める「観点のある論証」を書ける。

② 面接・口頭試問での倫理的判断問題

「患者が治療を拒否したらどうするか」という問いは、医学部面接で最も頻出なシナリオ問題である。「自律尊重原則と善行原則が対立する場面」として整理できる受験生の回答は、感情論で答える受験生と明確に評価が分かれる。

③ 看護・薬学・獣医学部の倫理論述

4原則は医学部に限らず、看護学部・薬学部・獣医学部の入試でも医療倫理問題の論拠として有効である。本講座で身につける枠組みは、医療系全学部の倫理論述に応用できる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学・京都大学 医学部	インフォームド・コンセント・終末期医療の小論文	4原則が論証の枠組みとして採点者の高評価に直結する
慶應義塾大学 医学部	医療資源配分・倫理的ジレンマの論述	原則の衝突を論じる力が他答案との差を生む
京都府立医科大学・奈良県立医科大学	地域医療・患者の意思決定を扱う小論文	自律尊重原則が地域医療の文脈で有効に機能する
看護学部・薬学部・獣医学部（全般）	医療倫理テーマの論述・面接	4原則の枠組みが医療系全学部の倫理論述に応用できる

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

医療倫理の問いに「感想」で答える受験生と、4原則という枠組みで論証できる受験生の差は、採点者（大学教員）には一読で明らかになる。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）医療倫理テーマに対して「どの原則が中心か」を先に決めて論証できる、（2）原則同士が衝突する場面でも論理的に論じられる、（3）面接で「患者が治療を拒否したらどうするか」に4原則を使って即答できる、という変化が起きる。

何十年も医学部の小論文・面接を審査してきた清光学院の講師陣は、「感想文答案」と「4原則で論証した答案」の評価の差が合否を左右する場面を採点者として体感してきた。その実感が、この講座の根拠である。